大阪 需要停滞感拭えず依然として軟地合い

（大阪）大阪地区の鉄スクラップ市況はなおも弱含み。今週は先週に比べて販路が広がっているが、それでも電炉筋によっては過剰入荷を防ぐ上で制限買いが残り、他も今後の入荷次第で不安定な荷受けが続きそうなことで、先安懸念は解消されてこない。12日時点での同地区電炉のH2実勢値は5万3500～5万4500円（一部上値5万5000円）、新断バラ同5万8500～5万9500円（同6万円）、鋼ダライ粉バラ同5万2000～5万4000円見当で推移している。

今月入って価格対応を見合わせてきた合同製鉄が12日からHS2,000円、他品種500円の値下げを行い、上級品種やH2は上値是正がすすむ展開となった。先週も年末の弱気ムードを引き継ぐ形で電炉値下げが相次ぎ行われたが、3連休中に一定の在庫消費がすすんだことを理由に、今週からはこれまでのような制限買いを多少なりとも緩和する動きも見られる。先行値下げ筋では東京製鉄並みもしくはそれ以下の価格レベルまで落ち込んできたところもあるなか、海外市場も持ち直しへ向かってきていることで、「ヤード出荷も幾分かは分散する傾向にある以上、高値メーカーや東鉄の動向を無視してまで下げていける状況にはなくなりつつあるのでは」（ヤード業者筋）との声が聞かれる。

一方、3連休明けにかけても電炉筋の在庫レベルは適正もしくはそれを上回る水準にある。在庫キャパや今月の生産量を考慮し、今週も最低限の入荷にとどめておきたい意向も見られ、こうした電炉筋では引き続き制限買いを行っている。12日からは高値修正にとどまっているが、先週の販路縮小で捌き切れなかった年末滞貨玉が好調な荷動きを持続させそうであり、電炉側にとって入荷を取り込みやすい環境には変わりないことで、「需給ギャップが解消されていないだけに、下げシロは残っているのでは」（商社）と見る向きが多い。

西日本高炉 1月購入量は5万㌧前後へ急減、上級の余剰感解消せず

西日本地域の高炉各製鉄所を合わせた1月鉄スクラップ購入予定量は5万㌧前後にとどまる見通しであり、12月比で約2万㌧の減少となりそうだ。

複数の関係筋によれば、域内高炉で最も購入量が多い日本製鉄九州製鉄所大分地区は12月調達量をそれまでの半減となる約3万㌧へ抑制したが、1月購入は約2万㌧にさらに落とす動きにあるようだ。また、同社瀬戸内製鉄所の広畑地区は12月に年末年始を納期とした入札を行ったものの、1月分については新たな入札予定は現時点で聞かれず、リターンのみの少量調達にとどまると推測されている。同社関西製鉄所和歌山地区は12月も11月同様に追回入札分を合わせて1万㌧以上の手当てを行ったが、今月は約5,000㌧の調達にとどめていると見られ、3製鉄所ともに1月購入量は12月比で減少へ向かっている。一方、JFEスチール西日本製鉄所の倉敷地区は先月と同様に、今月も約1万5000㌧、福山地区も9,000㌧前後の調達を継続する見通しだ。この結果、製鉄所間で購入に温度差はあるものの、域内高炉合わせた購入量は昨年3月以来の水準にまで低下することが見込まれている。

輸出の先行安や高炉購入の減退を背景に、上級品種の余剰感が目立ち始め、東京製鉄に先行して単独で買値を引き下げる動きも見られる。その影響によって、上級とH2の価格差は一時、拡大がすすんだが、足元にかけては価格面の二極化が完全に解消されており、「高炉の購入減の影響が需給や価格に影響を及ぼしている。H2以下の需要は安定しているが、上級については改善の糸口が見えてこない」（商社）という。

山原商会、重機や運搬車を更新・増設

（山口）金属スクラップディーラーの山原商会（本社＝山口県宇部市、山原一紀社長）は昨年末、重機や運搬車輌を更新・増設した。スクラップの入出荷体制の強化が狙いで、隣接する港町ヤードと連携を図り、作業の効率化に取り組んでいく。

今回、導入した重機は日立建機製ZX240LC-6グラップル仕様、コマツ製作所製PC350LC-11ラバンティシャー仕様。運搬車輌は日野自動車製2PG-FS1AHA（10トン車）を2台。そのうちの1台はトラッククレーン車で、クレーンはHIAB製X-CLX148B-2になる。

導入した重機

導入した重機についてはグラップル仕様機を港町ヤードに配備しており、山原社長は「今後は港町ヤードの荷捌きにも注力し、迅速な対応を心掛けたい」と話す。

製鋼原料
ギロチンシャー
プレス加工
◉ギロチン材，鋼ダライ粉
◉新断くず
◉ステンレス，その他非鉄全般
高価大量買付け
ISO14001認証取得
MIURA METAL CORP.
三浦金属株式会社
本社 大阪市西淀川区佃４－３－12
ＴＥＬ06（6471）1038㈹
ＦＡＸ06（6471）2559